

Rock The Life! ezorock 2023.04 vol.39

プロジェクト以外の取り組み

■オーガニックポップコーンに関する活動～販売・子どもたちへのプログラム提供



ezorock事務所でポップコーンの販売を行った他、出店を行いました。また、ポップコーンが手軽に調理できるという特性を生かし、放課後等デイサービス「もりびた」の子ども達とともにポップコーンを調理する体験プログラム提供を行いました。子ども達の目線で考え、楽しみながら真剣にプログラムに参加する姿がとても印象的でした。ポップコーンをツールに活動を模索している取り組みとなっています。

■えぞごはん～毎週金曜日はコミュニティスペースでごはんを食べる



毎週金曜日18時からは「えぞごはん」の日としてezorock事務所の1Fコミュニティスペースで活動に関わる各地域の食材などを使いごはんを作っています。新型コロナウイルスの影響でezorock事務所に人が集まることが少なくなりましたが、これまで通り1Fコミュニティスペースは会員向け開放しています。ごはんを食べに来るだけでなく、勉強や何か作業したいという時にはぜひ足を運んでみてください！

実はこんなことも!?

■札幌国際芸術祭(SIAF) ボランティアコーディネーター

2024年冬に開催される札幌国際芸術祭のボランティアコーディネーターを担っています。開催に向けて本格始動する前の今年度は、計画づくりを行いました。今後の動きにぜひご注目ください！

■小・中・高校の授業受入

中富良野町立中富良野小学校、札幌市立柏丘中学校、北海道札幌英藍高等学校の総合学習でのプログラム提供を行いました。主にezorockの活動や参加するメンバーについて伝えたり、取り組みについて一緒に考えました。



■苗穂川でのポイ捨て社会実験

北海道大学と連携し、札幌市東区の苗穂川沿いでのごみのポイ捨ての社会実験を行いました。花や電飾等の介入物を設置し、ごみのポイ捨て抑制にどの程度影響があるかを調査しました。

代表の小言

上・中・下

「上」という漢字には、下に蓋があり下が見えない。下という漢字には、上に蓋がついているので、上が見えない。中という字には、真ん中に線があるので、その両者を繋ぐ役割がある。この表現で正しいのか、そもそも、いつどこで聞いた話かもわからないのだが、私が好きな表現の一つだ。何かと何かを繋ぐ役割を、コーディネートや中間支援と表現されるが、私自身も、世代間や地域間の繋ぎ役を担う場面が増えてきた。コーディネートには、両者の考え方の背景を理解する(聴く)力や、バランスをみながら、各々の価値が最大化できるポイントを探す力などが求められる。何かと何かの間に立つというのは、楽ではない場面もあるが、その先に新たな化学反応が起き、何かが生まれる瞬間に立ち会えるのはなんとも面白いもの。このつなぐ役目(特に世代間!)に関心を広げ、担い手が増えることを切に願う。

草野竹史

NPO法人ezorock 会員向け情報誌 vol.39 2023.04

Rock The Life! ezorock

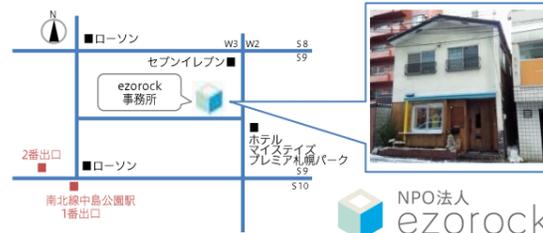
〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1番7号
TEL/FAX 011-562-0081 E-mail info@ezorock.org
WEB <https://www.ezorock.org/>

ezorockの最新情報が分かる
各種SNSはこちらから



@ezorockで検索

Facebook Twitter 公式LINE



NPO法人 ezorock



今号の写真
2022年度の活動写真を集めました。



環境対策活動

EarthCare/RSRオーガニックファーム



活動紹介 野外音楽フェスティバルや、地域のお祭りにおけるごみ分別ナビゲートを展開。「ごみ」をツールに、自分自身で「Do It Yourself」の精神を伝えることで、参加型社会をつくる。

実施活動 6つのイベントでの環境対策活動日数10日のべ338人(RISING SUN ROCK FESTIVAL 2022 in EZO等)
成果 3年ぶりの開催であるRSRや地域のお祭りにて環境対策活動を実施。また、小学校や高校で活動紹介を行い、ごみ問題をはじめとしたSDGsへの興味や関心の共有や自分たちにできることを皆で考える時間となった。

コメント 久しぶりの現場を経てこの活動の「楽しさ」と「大切さ」を実感した1年。活動の顔であるごみ箱のリニューアルも行い、これをお披露目する来年度の活動が楽しみ。(二号)

シェアサイクル
ポロクル/モビリティについて考える会



活動紹介 シェアサイクル「ポロクル」の現場運営や自転車のルール・マナー啓発活動への参加。モビリティについて考える会(以下モビ会)では廃棄処分自転車数ゼロを目的とした「ゼロチャリ」プロジェクトが始動。

実施活動 サイクルシェア「ポロクル」の現場運営計219日クルー55名/Sapporo Love Bicycle Daysへの参加5名/自転車のルール・マナー啓発活動への参加3回/自転車の修理メンテナンス教室の開催11名/他

成果 自転車の修理メンテナンス教室の開催など、プロジェクト外の人に対してアプローチする活動ができた。

コメント モビ会としてのゼロチャリが始動し、ポロクルクルーの参加もみられ、活動参加への入口を広げることができた。(鮎)

プロジェクト「NINOMIYA」



活動紹介 未利用材を活用し、薪割り体験・薪生産を実施。生産された薪は販売、売上の一部は子ども向け体験へ。

実施活動 活動日数97日/薪生産量約12m³/薪販売件数77件約66立米/活動参加人数121人/イベント等での薪割り体験提供者数1206人/栗山町薪生産と里山整備事業/福祉事業所との生産連携4件/企業向け野外研修実施

成果 火災事故をきっかけに活動自体やプロジェクト体制すべてについての見直しと再構築を図った。これまでの薪割りノウハウを元に外に展開する活動が中心となり、薪割り体験提供のニーズの高さを改めて強く感じた。

コメント 課題やアップデートすべき仕組み等が一気に顕在化し、まとめきれず苦しい一年だった。一方で、ボランティアから薪の購入者まで大きなステークホルダーを抱えていたことも改めて実感。(てつ)

石狩体験キッズ「チポロ」



活動紹介 石狩を中心に、豊かな自然や文化、地域の人の魅力を活用し、自然体験の「機会」と「場」を提供するため活動を行う。森のようちえんなどの子どもの体験プログラムの企画・運営を実施。

実施活動 メインのフィールドが使用不可になり休止中
成果 フィールド札幌市内等に広げての活動を行う等、次年度以降の展開をチーム内で検討を続けている。
コメント フィールドの見直しを機会に、このプロジェクトが持つものの棚卸しをしながら、その上で今度の検討を行った一年だった。(てつ)

活動へご支援いただきありがとうございました

いただいたご寄付・助成金

助成金・補助金

- ・厚真町子ども応援基金(NPO法人北海道NPOファンド)
- ・北海道未来社会システム創造事業
((一社)北海道総合研究調査会/休眠預金を活用した助成事業)
- ・北海道青年活動元気づくりプロジェクト事業
((公財)北海道青少年育成協会)
- ・関係人口創出・拡大のための対流促進事業(内閣府)
- ・さぼーとほっと基金(札幌市)

ご寄付

- ・有限会社ひがしりサイクルサービス
- ・一般社団法人森里海の環境基金
- ・BESSフォレストクラブ
- ・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
- ・その他、個人のみなさま、ふるさと納税より

浜益ベース



活動紹介 石狩市浜益区にお借りしている一軒家「はまますベース」に宿泊・滞在しながら、浜益と都市部の人々をつなぐ様々な取り組みを展開。

実施活動 活動日数70日参加人数のべ139人(集落の教科書関連4日/果樹園作業37日/浜益川サケ釣獲調査管理棟スタッフ17日/その他12日)

成果 浜益区集落の教科書第1版を発行し、地域のみなさんの元へ届けることができた。地域の方にも感想をいただき、取り組みの成果を形にすることが出来た。

コメント 果樹園作業のお手伝いなど継続的に地域の方と都市部の若者が繋がりを深める活動だけでなく、新たにサケ釣獲調査管理棟のアルバイトに参加するなど、地域との関わりの幅が少し広がった1年だった。(かほ)

関係人口創出プロジェクト
179リレーションズ



活動紹介 北海道内の地域に関わる「入り口」をつくることを目的に活動。主に、地域とつながるオンラインイベントの企画や、地域に関わるコミュニティを構築し、実際に活動。

実施活動 オンラインイベント総再生回数309回/WEBマガジン掲載記事50本/活動日数167日 参加人数のべ702人/リレフェス2022開催 参加者167人/厚真町長期滞在プログラム・おためし地域おこし協力隊(佐呂間町・秩父別町)リレーションシップ研修プログラム実施 など

成果 企画運営や説明会・振り返りの型ができ、円滑な運営に繋がったり、活動へのリピーターや活動参加者がミーティングや勉強会に参加する機会が増加した。

コメント オンライン企画やWEBマガジンにより地域や活動を知り、実際に参加するという流れも見られ、オンラインからリアルな繋がりを生み出していることを感じた。(くめちゃん)

シカ革なめし部



活動紹介 北海道各地で捨てられてしまっているエゾシカ皮の「皮なめし」を切り口に、有効活用と野生動物との関わりについて考える。

実施活動 活動日数85日 参加人数のべ81人(皮なめし活動・体験81日/クラフト小物作成体験2日/体験授業2日)
成果 初の皮なめしの実証を通して、余分な脂肪や肉片を取り除く「裏すき」がボトルネックとなっていたことがわかった。また、東京の皮なめし工場と連携し、流通させることのできるエゾシカレザーを制作することができるようになった。

コメント 活動にボランティアを巻き込むことの難しさにぶつかった。多くの人に関わりやすい「裏すき」、クラフト体験や工場、アパレルブランドと連携し、未利用な資源から野生動物との問題について伝えるプロジェクトへと変化させていきたい。(しん)

サポートチーム



広報部

SNS等で定期的に情報を発信。毎月実施している団体説明会から71人が活動へと参加した。2023年1月に発行したニュースレターでは、浜益ベースが制作した「浜益版集落の教科書」を特集。活動や地域側の想いを伝えた。



交流部

第5週の水曜日は交流会の日とし、約3年ぶりにezorock事務所(コミュニティスペース)を利用して5回実施。オンライン化で直接会う機会が少なくなっている中、顔をあわせて交流を深める場となった。



研修部

2月に実施した青年層を対象に講演やディスカッションを行う2日間のフォーラムGREEN DAYでは、主に道内外の環境分野で活躍するゲストを招き、オンラインで実施した。少人数ではあったが、中身の濃い意見交換を行った。

報道採録

- ・4月 季刊地域Vol.49(浜益ベース)
- ・5月 エコチル北海道版5月号(職員水谷)
- ・7月2日 北海道新聞(浜益ベース)
- ・8月 広報たかす8月号(ボランティア久米)
- ・8月6日 北海道新聞(EarthCare)
- ・11月 JAさるま広報誌(179リレーションズ)
- ・1月17日 北海道新聞(179リレーションズ)
- ・2月 ソトコト3月号(179リレーションズ)
- ・3月 エコチル(中富良野小エココンテスト)



ソトコト 3月号



広報たかす 8月号